

経文を掲載しております。
大切にお取り扱います。

2023(令和5)年



本願寺 全体図



※P.13・14に法要・行事等の詳細を記した境内案内図を掲載いたしますので、そちらも併せてご参照ください。

恩徳讃

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

目次

恩徳讃	1
ご挨拶 〈浄土真宗本願寺派総長 石上 智康〉	3
「浄土真宗のみ教え」／「私たちのちかい」	5
浄土真宗の教章（私の歩む道）	6
親鸞聖人御誕生八百五十年	7
立教開宗 八百年 についての消息	9
本願寺本堂内陣修復完成のついでにの消息	11
御正忌報恩講法要 全日程表	13
御正忌報恩講法要 境内案内図	15
法要日程（9日～16日）	16
お 斎	20
御法楽献詠入選歌	24
通夜布教（15日）	25
慶讃法要記念愛唱歌「みんな花になれ」	26
御正忌報恩講法要期間中の関連行事	32
新制御本典作法	32
親鸞聖人のご生涯（御絵伝解説）	32
帰敬式	32
免物（携行本尊）	32
本願寺よりのご案内	32
はとけさまのお話（常例布教）／お西さんの法話	32
〈お西さんの土曜法話（法義示談）／お西さんを知ろう！	32
大谷本廟（京阪バス時刻表）	32
日野誕生院／角坊	32
2023（令和5）年 本願寺の法要行事日程	32
親鸞聖人御誕生八百五十年	32
立教開宗 八百年 慶讃法要	32
「ウクライナ緊急支援募金」募集について	32
領解文／報恩講の歌	32
親鸞聖人生誕850年特別展 親鸞生涯と名宝	32
御正忌報恩講法要期間中の仏華	32

2023（令和5）年

御正忌

報恩講

法要

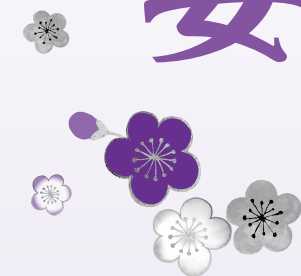
報恩講

は、親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご苦労を通じて、阿弥陀如来のご本願によるお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。

親鸞聖人の三十三回忌のご法要にあたり、本願寺第三代覚如上人がそのご遺徳を讃仰するため『報恩講私記』をご制作になられ、以来、聖人のご命日の法要は報恩講として、大切にお勤めされてきました。

本願寺第八代蓮如上人がお示しのとおり、正しくお念仏のいわれを聞かせていただき、身にいただくことが聖人の御恩に報いる道です。

報恩講は、一月九日から十六日までお勤めいたしております。お念仏の道をお示しいただいた親鸞聖人のご遺徳を偲ばせていただき、お念仏に遇えた喜びをこの身に受け、共々にお念仏申しませう。



御正忌報恩講法要をお迎えして

浄土真宗本願寺派総長

石上

智康

本願寺執行長

安永

雄玄

皆様には、厳しい寒さのなか、ようこそご参拝くださいました。

「御正忌報恩講法要」は、浄土真宗のみ教えを依りどころに生きる私たち念仏者にとって、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀如来の「そのままの救い」をあらためて心に深く味わわせていただく最も大切なご法要です。

今日、新型コロナウイルス感染症がもたらす不安や生きづらさのなか、多くの方が悩み苦しみを抱えておられます。また、ロシア軍によるウクライナ侵攻では、武力で一方的に現状を変更しようとする暴力的な行為によって、多くの方が悲しみのうちにおられます。こうした困難で厳しい現実のなかにあつて、私たちはどう生きていけばいいのでしょうか。

二〇二一年（令和三）年四月の立教開宗記念法要におけるご親教でご門主様は、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、その肝要を『浄土

真宗のみ教え』としてお示しになり、「阿弥陀如来に願われないのちと知らされ、その温かなお慈悲に触れる時、大きな安心とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに敬い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝の道を歩まれたのが親鸞聖人でした」とご教示くださいました。

今こそ、「世のなか安穩なれ 仏法ひろまれ」と願われた宗祖のお心を深く受けとめ、そのみ跡を慕う私たち一人ひとりの、仏法を灯火とし、仏智に導かれた行動が求められるのでありましょう。

本年の御正忌報恩講法要を機縁とし、『浄土真宗のみ教え』を共に唱和し、具体的にそのお心になった生き方を実践し、自他共に心豊かに生きていくことのできる社会の実現に向け、日々に精一杯つとめさせていただきたいと存じます。

御正忌報恩講法要の後には、いよいよ「親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百周年 慶讃法要」をお迎えいたします。重ねて皆様のご参拝をご案内申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

合掌

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて
この愚身をまかす このままで
救い取られる 自然の浄土
仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり
少しずつ 執われの心を 離れます
生かされていることに 感謝して
むさぼり いかりに 流されず
穏やかな顔と 優しい言葉
喜びも 悲しみも 分かち合い
日々に 精一杯 つとめます

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

浄土真宗の教章（私の歩む道）

宗名 浄土真宗
宗祖 親鸞聖人
（ご開山）

ご誕生 一七三三年五月二十一日
（承安三年四月二日）
ご往生 一二六二年一月十六日
（弘長二年十一月二十八日）

宗派 浄土真宗本願寺派
本山 龍谷山 本願寺（西本願寺）
聖典 阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）
・釈迦如来が説かれた「浄土三部経」

・「仏説無量寿経」

・「仏説観無量寿経」

・「仏説阿弥陀経」

・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

・「正信念仏偈」「教行信証」行巻末の偈文

・「浄土和讃」「高僧和讃」「正像末和讃」

・中興の祖 蓮如上人のお手紙

『御文章』

教義

阿弥陀如来の本願力によって信心を
めぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この
世の縁が尽きるとき浄土に生まれて
仏となり、迷いの世に還って人々を教化
する。

生活

親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀
如来の心を聞き、念仏を称えつつ、
つねにわが身をふりかえり、慚愧と
歡喜のうちに、現世祈禱などにたよる
ことなく、御恩報謝の生活を送る。

宗門

この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、
念仏を申す人々の集う同朋教団で
あり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を
伝える教団である。それによって、自他
ともに心豊かに生きることのできる
社会の実現に貢献する。

親鸞聖人御誕生八百五十年について の消息 立教開宗八百周年

来る二〇二三年には、宗祖親鸞聖人のご誕生八百五十年、また、その翌年には立教開宗八百年にあたる記念すべき年をお迎えするにあたり、二〇二三年に慶讃法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は承安三年・一一七三年にご誕生となり、御年九歳で出家得度され、比叡山で修行を重ねられました。二十九歳の折、山を下りて法然聖人の御弟子となられ、阿弥陀如来の本願念仏の世界に入られました。その後、専修念仏停止によって越後にご流罪になられ、赦免の後には関東に赴かれて他力念仏のみ教えを人々に伝えられるとともに、『教行信証』の執筆にとりかかられました。他力念仏のみ教えがまとめられた本書は、浄土真宗の根本聖典という意味でご本典と呼ばれています。そして、そのご本典の記述によって、その成立を親鸞聖人五十二歳の時、すなわち元仁元年・一二二四年とみて、この年を立教開宗の年と定めています。

仏教は今から約二千五百年前、釈尊が縁起や諸行無常・諸法無我というこの世界のありのままの真実をさとられたことに始まります。翻って私たちは、この執われのなにおさとの真実に気づくことができず、常に自分中心の心で物事を見て、悩み、悲しみ、あるいは他人と争ったりしています。釈尊は、このような私たちをそのままに

救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿弥陀如来であることを教えてくださいました。そして、親鸞聖人は、この阿弥陀如来の願いが、南無阿弥陀仏のお念仏となつてはたらく続けてくださっていることを明らかにされたのです。

ありのままの真実に基づく阿弥陀如来のお慈悲でありますから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、自己中心的な考え方しかできない煩惱具足の私たちも決して見捨てられることはありません。その広大な慈悲を思うとき、親鸞聖人が「恥づべし傷むべし」とおっしゃったように、阿弥陀如来のお心とあまりにもかけ離れた私たちの生活を深く慚愧せざるをえません。しかし、この慚愧の思いは、阿弥陀如来の悲しみを少しでも軽くすることができればという方向に私たちを動かすでしょう。

それは、阿弥陀如来の願いを一人でも多くの人に伝え、他人の喜び悲しみを自らの喜び悲しみとするような如来のお心になう生き方であり、また、世の安穩、仏法弘通を願われた親鸞聖人のお心に浴う生活です。み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、宗門総合振興計画の取り組みを進めながら、来るべき親鸞聖人ご誕生八百五十年ならびに立教開宗八百年の慶讃法要をともにお迎えいたしましょう。

平成三十一年 一月九日
二〇一九年

龍谷門主 釋 専 如

本願寺本堂内陣修復完成についての消息

宗祖親鸞聖人が阿弥陀如来のご本願の救いを明らかにされ、浄土真宗を開かれてからすでに八百年近くになりました。この間、聖人のみ教えを仰ぎ、お念仏を喜ぶ根本道場として本願寺は建立され、世界各地の僧侶・寺族・門信徒の方々によって今日まで護持されてきました。

現在の本願寺本堂（阿弥陀堂）は、宝暦十年・一七六〇年の再建から二百年余りを経て屋根全般が老朽化したことに伴い、昭和五十四年・一九七九年から五年半の歳月を要して、屋根瓦の全面葺替えとそれに伴う修復や防災設備を施す工事を行いました。そして、このたびは平成二十九年・二〇一七年八月から内陣、余間および三之間の漆塗、金箔、彩色、金具、巻障子、天井画、障壁等の修理、また宮殿の修復を行い、来年三月にすべての工事を完了することになりました。

これによって私たちは、先人の方々によって建立され伝持されてきた聞法の道場を、また文化財としての貴重な建造物を後世に遺すことができることになりました。このような大事業が完遂できますことは、ひとえに仏祖ご照覧のもと、有縁の皆様のご懇念やご協賛、また重要文化財への公的資金の補助によるものであり、まことに有り難く尊いことです。

省みれば、私たちはものごとを正しく見ることができず自己中心の心に執われて、無常・無我・縁起といった釈尊の教えに背き続ける苦悩の日々を送っています。阿弥陀如来のお慈悲は、そのような私たちを慈しみ、深く悲しんでおられます。如来のおさとの真実に包まれ、智慧の光に照らし出された私たちは、自身が凡愚の身であるとは知らされ、お慈悲に救われる喜びと仏恩報謝の思いから、少しでも執われの心を離れなければならぬと気づかされ、阿弥陀如来の悲しみを深めないように生きていくのです。これこそが念仏者の生き方といえましょう。

この生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう本年四月の立教開宗記念法要において、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として述べさせていただきました。来年四月には、阿弥陀堂内陣修復完成奉告法要および慶讃法要がお勤めされます。これからみ教えに導かれ、我執我欲に迷うわが身を省みるとともに、お慈悲によるこの愚身みこのままの救いに感謝し、格差や分断が指摘される今日の社会の中にあって、互いに敬い助け合ってお念仏の朋ともの輪を広げてまいりましょう。

令和三年 十一月二十三日
二〇二一年

龍谷門主 釋 専 如

2023(令和5)年

御正忌報恩講法要 全日程表

9日 逮夜法要～16日 日中法要

《関連行事》

- ★A…12日(木) 13:15～ 御法楽献詠入選者表彰式 【御影堂】
 ★B…14日(土) 12:30～ 第66回 全国児童生徒作品展表彰式 【阿弥陀堂】
 ★C…15日(日) 11:50～ 講社懇志進納講並びにご消息ご披露式 【御影堂】
 ★D…15日(日) 16:00～ 奉讃演奏会上映 【聞法会館(3F 研修室①)】※事前収録配信 P.24

お頭人

お頭人とは、御正忌報恩講法要中に
おける初夜勤行(斎、非時の勤行)
に正信偈を勤める調声人のことで、
喚鐘が鳴り終わり、係の者(承仕)
が外陣で「お頭人！お頭人！」と大
きく呼ぶ声が御堂中に響き渡ると、
お勤めが始まります。



●ご参拝時の留意事項

- (1) 発熱等(37.5度以上)、又は体調に不安のある方は、ご参拝をご遠慮ください。
- (2) ご参拝時には検温・マスクの着用、消毒液による消毒等、感染症予防対策の徹底にご協力いただきますようお願いいたします。
- (3) 御堂内は随時換気を行いますので、ご自身で重ね着やひざ掛けなど十分な防寒対策をたうえで、ご参拝ください。感染症対策によりブランケットは配布いたしません。

●法要中継について ▶LIVE

法要の様子は随時インターネットにて中継・配信いたしますので、寺院・各ご家庭等でもご参拝いただけます。詳細は本願寺ホームページにて後日ご案内いたします。



時間	6:00	8:10	10:00	11:10 ～11:50	12:10 ～12:50	14:00	15:30 ※15日は18:00	18:00
法要行事	晨朝	常例布教	日中法要	特別講演	御絵伝 解説	逮夜法要	初夜	通夜布教
場所	阿弥陀堂 御影堂	総会所	御影堂	総会所	総会所	御影堂	御影堂	総会所 多目的ホール
9日(月・祝) 開門5:30/閉門17:00						大師影供作法	改悔批判	
10日(火) 開門5:00/閉門17:00	小経(呉音)【阿】 日没礼讃【御】	本願寺派布教使 和氣 秀剛	二門偈作法	—	〈第1幅〉 朝山 大俊	奉讃大師作法	正信偈(斎) 改悔批判 正信偈(非時)	
11日(水) 開門5:00/閉門17:00	小経(呉音)【阿】 初夜礼讃【御】		新制御本典作法	本願寺派勤学 満井 秀城	〈第2幅〉 三ヶ本義唯	正信念佛偈作法 第三種	正信偈(斎) 改悔批判 正信偈(非時)	
12日(木) 開門5:00/閉門17:00	小経(呉音)【阿】 中夜礼讃【御】		奉讃大師作法	本願寺派布教使 若林 真人	〈第3幅〉 田坂亜紀子	★A 浄土法事讃作法	正信偈(斎) 改悔批判 正信偈(非時)	
13日(金) 開門5:00/閉門17:30	小経(呉音)【阿】 後夜礼讃【御】	本願寺派布教使 貴島 信行	二門偈作法	龍谷大学教授 玉木 興慈	〈第4幅〉 野田 茜	宗祖讃仰作法 (音楽法要)	正信偈(斎) 御伝記拝読 正信偈(非時)	
14日(土) 開門5:00/閉門17:00	小経(呉音)【阿】 晨朝礼讃【御】		新制御本典作法	本願寺派布教使 武田 正知	★B	大師影供作法 御俗姓拝読	正信偈(斎) 改悔批判 正信偈(非時)	
15日(日) 開門5:00/閉門19:30	小経(呉音)【阿】 日中礼讃【御】		五会念佛作法	本願寺派布教使 野瀬 妙恵	★C	—	★D 18:00 正信偈(斎) 改悔批判 正信偈(非時)	通夜布教 (～22:00)
16日(月) 開門5:00/閉門17:00	小経(漢音)【阿】 正信偈(真譜)【御】		報恩講作法					

※【阿】…阿弥陀堂 【御】…御影堂

「御正忌報恩講法要」 境内案内図

(時間・内容等変更の場合もあります)



●10~15日
お斎会場 (P.16)

●受付 お斎 (P.16)
帰敬式 (P.63)
免物
懇志
永代経

●法要 晨朝 (6時)
日中 (10時)
速夜 (14時)
初夜 (15時30分※15日は18時)
●12日 御法楽献詠入選者表彰式
●15日 講社懇志進納講並びにご消息ご披露式
●15日 ご門主様ご親教 (速夜法要に引き続き)
●帰敬式 (P.63)

●御影堂荘厳具・
供物等の展示 (P.18)

●宗門社会活動展
●矯正展〈キャピック展〉
●被災地支援物産展

●全国児童生徒作品展

阿弥陀堂
モニター中継

●14日
全国児童生徒
作品展表彰式

●お西さんを知ろう! (P.66)
●「子どもたちの
笑顔のために募金」ブース
●ほっとはあとショップ

法要出勤者
入口

白洲
テント

お茶所
(総合案内所)

防災センター
(お忘れ物)

安穏殿
2Fモニター中継
W.C.
1Fブックセンター
9:00~17:00
(16日8:00~17:00)

1F 人権パネル展
1F 矯正展〈キャピック展〉
1F 15日 (17時~19時)
ほっとはあとショップ
3F 15日 奉讃演奏会上映 (P.24)
3F 15日 (18時40分~22時)
通夜布教 (P.24)

1F 売店*3
B1F 食事処*4
間法会館
(1F 総会所)
W.C.

●10~15日 (8時10分)
常例布教 (P.15)
●10~13日 (12時10分)
御絵伝解説
●11~15日 (11時10分)
特別講演
●15日 (18時40分~22時)
通夜布教 (P.24)

- ♥ = AED (自動体外式除細動器) 設置場所
 - ♿ = 車椅子対応エレベーター
 - ♿ = 喫煙所 (北境内地に1ヵ所)
 - ♿ = オストメイト対応トイレ (多目的トイレ)
 - ♿ = 授乳室
 - ♿ = 喫茶・食事処
 - ♿ = スタンプ
 - ♿ = Wi-Fi電波受信建物
SSID: Wi2_free
- *1 紫雲 10:00~15:00
*2 法輪*3 8:45~17:00
*4 がんこ 西本願寺別邸
7:00~9:00
11:00~14:00
17:30~21:00

時刻表 (P.67)

御正忌報恩講法要(日程)

9日

月・祝

開門 5:30 閉門 17:00

帰敬式(御影堂)

午前 晨朝後 午後 13:00

13時30分頃 御堂布教
13時55分 御親開扉

14時00分 速夜法要
大師影供作法

15時30分 初夜(改悔批判)
(約25分)

御影堂 御影堂 御影堂

常例布教

総会所

8時10分 20分間 ※10~15日

御堂布教

〔日中法要前〕 9時30分頃
〔速夜法要前〕 13時30分頃

15分間 15分間

9日午後
12日午前

慶ばしいかな



和氣秀剛 師
奈良教区 吉野西組 圓光寺

12日午後
16日午前

み教えに遇う



貴島信行 師
大阪教区 東成組 真行寺

※16日午後より通常通り

P.65

御親開扉

このたびの御正忌報恩講法要をお迎えするにあたり、ご門主様により、御真影様ご安置の御厨子の扉が開けられます。

改悔批判

※13日は御伝記拝読のためおこないません。

改悔批判とは、ご門主様が信心(安心)の正否を批判(判断)する儀式です。

本願寺第八代蓮如上人のころ、報恩講中の毎夜、篤信の僧侶・門徒が各自の信仰を告白し、批判を仰いだことはじまるものです。

現在は、9日は初夜に、10、11、12、14、15日は初夜のお勤めに引き続き、改悔批判をおこなっております。

今年の与奪者は普賢保之勧学です。



経文については、別冊の『御正忌報恩講勸行集』をご参照ください。なお、「新制御本典作法」は本誌に掲載しています。

要申込

お斎



とき ● 1月10日(火)~15日(日)

【1回目】12時~ 【2回目】13時~

※定員(各回64名) ※10日は13時~のみ

ところ ● 書院(鴻之間) 全席椅子席

仏教では、午前十時から正午までの間に食事をする習わしがあり、このときの料理を『斎』といいます。

本願寺では、毎年一月十日から十五日まで、日中法要後にお斎の接待を国宝の書院(鴻之間)にておこなっています。

本願寺でのお斎は、動物性の食材は一切用いず、一汁五菜を基本にした精進料理で、蜜柑(和歌山 有田北組の皆様がご進納)とお酒を土産にお持ち帰りいただきます。

お申込みについては、参拝教化部までおたずねください。

・お一人様につき一万元以上のご懇志に対するお扱いとなります。
※新型コロナウイルス感染症の感染状況により中止となる場合があります。

担当部 参拝教化部(龍虎殿1階) ※以下ページ担当部は で表記

10日

火

開門 5:00 閉門 17:00

帰敬式 (御影堂)

午前 晨朝後 午後 13:00

6時00分	晨朝〔小経(具音)・往生礼讃偈(日没)〕	両	堂
8時10分	常例布教	総	会
9時30分頃	御堂布教	御	影
10時00分	日中法要 二門偈作法	御	影
12時10分	御絵伝解説〈第一幅〉 P.55 ~ P.56	総	会
13時30分頃	御堂布教	御	影
14時00分	逮夜法要 奉讃大師作法	御	影
15時30分	初夜〔正信偈 引き続き改悔批判〕	御	影

御絵伝解説

―御絵伝に見る親鸞聖人のご生涯―

総会所にて奉懸した御絵伝をもとに、布教研究専従職員が四日間連続して場面ごとに解説いたします。

絵の中に描かれた宗祖親鸞聖人のご生涯を紐解いてゆく中に、ご遺徳を偲ばせていただきます。

※併せて54〜62ページもご参照ください。

講 師

と き	● 1月10日(火)～13日(金)
	12時10分～12時50分
と ころ	● 間法会館 1 階 総会所
講 師	
〈第一幅〉 10日(火)	あさ やま だい しゅん (大阪府) 朝山 大 俊
〈第二幅〉 11日(水)	み か もと ぎ ゆい (広島県) 三ヶ本 義 唯
〈第三幅〉 12日(木)	た さ か あ き こ (山口県) 田坂 垂 紀子
〈第四幅〉 13日(金)	の だ あ か ね (大阪府) 野 田 茜

11日

水

開門 5:00 閉門 17:00

帰敬式 (御影堂)

午前 晨朝後 午後 13:00

6時00分	晨朝〔小経(具音)・往生礼讃偈(初夜)〕	両	堂
8時10分	常例布教	総	会
9時30分頃	御堂布教	御	影
10時00分	日中法要 新制御本典作法	御	影
11時10分	特別講演	総	会
12時10分	御絵伝解説〈第二幅〉 P.57 ~ P.58	総	会
13時30分頃	御堂布教	御	影
14時00分	逮夜法要 正信念佛偈作法 第三種	御	影
15時30分	初夜〔正信偈 引き続き改悔批判〕	御	影

御影堂荘厳具・供物等の展示

御正忌報恩講法要期間中、阿弥陀堂・御影堂間渡廊下に二つの大型ブースを設け、実際に御影堂にて使用いたしておられます荘厳具・供物等を前後半に分けて展示いたします。貴重な機会ですので、ぜひご覧ください。

11:10～11:50
特別講演

立教開宗の意義



本願寺派勸学 満井秀城 師

と き ● 前半：1月 9日(月・祝)～12日(木)午前
後半： 12日(木)午後～16日(月)

と ころ ● 両堂間渡廊下

前 半

- ・ 蠟燭立〔御影堂内陣にて使用〕
- ・ 輪 灯〔同上〕
- ・ 金灯籠〔同上〕
- ・ 花 瓶〔同上〕

後 半

- ・ 供 物〔9～12日日中まで荘厳のもの〕
- ・ 打 敷〔朱紅色唐織錦地霞牡丹舞蝶紋〕
〔9～12日日中まで荘厳のもの〕

12日

木

開門 5:00 閉門 17:00

帰敬式 (御影堂)

午前 晨朝後

午後 13:00

御法楽献詠

聞法の慶びを和歌に詠む御法楽献詠は、毎年兼題を定め、僧侶・寺族・門信徒の方がたから広く歌を募っております。

本年の兼題は「詩(うた)」とし、全国より寄せられた138首の中から次ページの5首が入選いたしました。

6時00分	晨朝〔小経(呉音)・往生礼讃偈(中夜)〕	両
8時10分	常例布教	総
9時30分頃	御堂布教	御
10時00分 (約50分)	日中法要 奉讃大師作法	御
11時10分	特別講演	総
12時10分 (約40分)	御絵伝解説 〈第三幅〉 P.59、P.60	総
13時15分	御法楽献詠入選者表彰式	御
13時30分頃	御堂布教	御
14時00分 (約65分)	逮夜法要 浄土法事讃作法	御
15時30分 (約60分)	初夜〔正信偈 引き続き改悔批判〕	御

11:10~11:50
特別講演

信行両座



本願寺派布教使
若林眞人師

兼題

詩

講評

宗派月刊誌「大乘」歌壇選者

喜多

弘樹

真実なき身と仰せなる祖師の詩

血汐となりて流れやまざり

三重県

伊藤順子

〔評〕

「真実の心はありがたし」(愚禿悲歎述懐)、親鸞聖人の御和讃をしみじみと味わいながら、つねに慈悲の大河は作者に向かって流れてくるのでしよう。

この世にて巡り会えたる喜びは

父母にもまして弥陀慈悲の詩

愛知県

井上透

〔評〕

この濁世のただなかで、親鸞聖人の御和讃に出あえた喜び。それは父母の慈しみ以上にありがたいみ教えでありました。煩惱具足の凡夫ゆえに。

幾星霜をこえて届けしこの胸に

この苦しみにみ親の詩は

熊本県

星子正美

〔評〕

御和讃を何度もお唱えしながら、このわたくしに届いた祖師の詩。幾星霜をこえてまで伝えてくださった有縁の方々に深く感謝しながら。

朝まだき「しんらんさま」を詩いつつ

水田見回る山道涼し

岡山県

久保田政榮

〔評〕

すがすがしい早朝。田の見回りが作者の日課でしようか。「しんらんさま」の詩を口ずさみながら、この山道を歩く。涼しい風が頬をやさしく撫でます。

目を閉じてかみしめながら称へをり

朝な夕な恩徳讃を

奈良県

沖仲瑩子

〔評〕

「恩徳讃」をいくたびも唱えられた作者のつつましく、ひたむきな姿が目には浮かぶようです。御和讃を心から味わう、そんな強い思いをこめながら。

令和5年

御法楽献詠入選歌

13日

金

開門 5:00 閉門 17:30

帰敬式 (御影堂)

午前 晨朝後 午後 13:00

6時00分	晨朝〔小経(具音)・往生礼讃偈(後夜)〕	両
8時10分	常例布教	総会
9時30分頃	御堂布教	御影堂
10時00分 (約35分)	日中法要 二門偈作法	御影堂
11時10分	特別講演	総会
12時10分 (約40分)	御絵伝解説 (第四幅) P.61〜P.62	総会
13時30分頃	御堂布教	御影堂
14時00分 (約40分)	逮夜法要 宗祖讃仰作法(音楽法要)	御影堂
15時30分 (約130分)	初夜〔正信偈 引き続き御伝記拝読〕	御影堂

11:10~11:50

特別講演

人倫の喟言を恥ぢず



龍谷大学教授
玉木興慈師

『御伝記(御伝鈔)』と『御絵伝』
本願寺第三代寛如上人は、親鸞聖人のご遺徳を讃仰するために、その生涯の行蹟を文章と絵で交互に描いた絵巻物をつくられました。『善信聖人親鸞伝絵』あるいは『本願寺聖人親鸞伝絵』などと呼ばれています。
後に多くのご門徒の方がたにご覧いただけるようにと、文章と絵は別々に分けられ、それぞれ『御伝鈔』『御絵伝』と呼ばれ、流布するようになりました。
御正忌報恩講の折にこの「御絵伝」(八幅)を御影堂の左右両余間にお掛けし、一月十三日に『御伝鈔』を拝読して宗祖のご生涯を偲ばせていただきます。

※本山では『御伝記』、一般には『御伝鈔』と呼びます。

14日

土

開門 5:00 閉門 17:00

帰敬式 (御影堂)

午前 晨朝後 午後 13:00

6時00分	晨朝〔小経(具音)・往生礼讃偈(晨朝)〕	両
8時10分	常例布教	総会
9時30分頃	御堂布教	御影堂
10時00分 (約40分)	日中法要 新制御本典作法	御影堂
11時10分	特別講演	総会
12時30分	第66回全国児童生徒作品展表彰式	阿彌陀堂
13時30分頃	御堂布教	御影堂
14時00分 (約65分)	逮夜法要 大師影供作法 御俗姓拝読	御影堂
15時30分 (約60分)	初夜〔正信偈 引き続き改悔批判〕	御影堂

11:10~11:50

特別講演

親鸞聖人伝・弥陀三尊との出会い



本願寺派布教使
武田正知師
(旭堂南雲)

御俗姓

御俗姓は『俗姓の御文』とも呼ばれ、本願寺第八代蓮如上人が一四七七(文明九)年に親鸞聖人の御正忌報恩講に際してお書きになった御文章です。

前文では宗祖の俗姓を明かし、行蹟を述べられ、後文では報恩講における門徒の心得が説かれ、一念帰命の真実信心を勧められています。

15日

開門 5:00 閉門 19:30

帰敬式 (御影堂)

午前 晨朝後 午後 13:00

6時00分	晨朝 (小経(具音)・往生礼讃偈(日中))	両
8時10分	常例布教	総
9時30分頃	御堂布教	御
10時00分	日中法要 五会念佛作法	御
(約45分)		影

11時10分	特別講演	総
11時50分	講社懇志進納講並びにご消息ご披露式	御
13時30分頃	御堂布教	御
14時00分	速夜法要 広文類作法	御
引き続き	ご門主様ご親教 手話通訳	影

16時00分	奉讃演奏会 上映 P.24	聞
(約60分)		法
18時00分	初夜 (正信偈) 引き続き改悔批判	御
(約60分)		影
18時00分	通夜布教 (22時閉場予定) P.24	聞
		法

11:10~11:50 特別講演

「自分ものさし」は捨てられない



本願寺派布教使 野瀬妙恵師

とき ● 1月15日(日) 11時50分
ところ ● 御影堂



講社ホームページを随時更新中です。歴史や年間行事など幅広く紹介しております。
http://kousha.hongwanji.or.jp



参拝教化部

講社懇志進納講並びにご消息ご披露式

本願寺に対し物心両面にわたりご尽力いただいている本願寺全国講社連絡会の各講社より、一年間に進納のあった進納品並びに懇志進納額が読みあげられ、目録進呈後、一九六五(昭和四十)年に本願寺第二十三代勝如上人が発布された「講社への消息」が披露されます。

16日

開門 5:00 閉門 17:00

月



合唱と打楽器アンサンブルによる仏教讃歌の調べをお楽しみください。

本年は新型コロナウイルスの感染予防対策として、事前に収録した演奏をインターネット配信にてお届けいたします。また、その映像を配信と同時に上映いたします。

※例年とは異なり、生演奏は行いません。

プログラム

みんな花になれ (愛唱歌)
本願力のめぐみゆえ
しんらんさま いのち 他

[出演]

本願寺合唱団
(指揮:鈴木捺香子 ピアノ:井上なおみ)
相愛大学 音楽学部 打楽器専攻
卒業生によるアンサンブル

配信 ● 1月15日(日) 16時~(約60分)

上映 ● 聞法会館 3階研修室①
[開場 15時30分]
※予約不要・入場無料
(席数に限りがあります)

※新型コロナウイルス感染症の状況により、上映を中止する場合があります。

浄土真宗本願寺派総合研究所



配信はこちらから

御正忌報恩講 奉讃演奏会 2023
— 通夜布教前のひとときを 仏教讃歌とともに —

通夜布教

とき ● 1月15日(日) 18時00分 ところ ● 聞法会館(2会場)(1階 総会所・3階 多目的ホール)

総会所 (聞法会館1階)			時間	多目的ホール (聞法会館3階)		
開会・勤行			18:00~18:25	開会・勤行		
貴島信行	大阪教区 東成組 真行寺	18:30~19:00	林 安明	鹿児島教区 鹿児島組 無限寺		
木曾 隆 (隆志)	新潟教区 長岡組 長永寺	19:00~19:30	小林智乗	山口教区 熊南組 法隆寺		
休憩			19:30~19:40	休憩		
横山大悟	岐阜教区 岐阜組 専琳寺	19:40~20:10	青峰明誓	滋賀教区 愛知上組 願正寺		
花岡尚樹 (樹流)	奈良教区 吉野北組 浄迎寺	20:10~20:40	長井順一 (順成)	国府教区 米山組 浄善寺		
休憩			20:40~20:50	休憩		
片山英道	四州教区 飯山南組 源正寺	20:50~21:20	立川 証 (道証)	高岡教区 川上組 浄教寺		
松田 暁 (暁証)	大分教区 中津組 徳勝寺	21:20~21:50	杉本光仁	兵庫教区 神戸東組 照善寺		
閉会 (22:00閉場予定)						

モニター中継およびインターネット中継を行います ※モニター中継会場 3階研修室

公開講座	伝道本部		間 法 会 館		白洲特設テントエリア		お 茶 所			スタンプラリー
	展 示		販 売		販 売	展 示	募 金	販 売		
⑩ 第16回 本願寺史料研究所公開講座	⑨ 第66回 全国児童生徒作品展	⑧ 人権パネル展	⑦ 通夜布教書籍頒布	⑥ 矯正展（キャピック展）（2会場）	御正忌報恩講 法要期間中の 関連行事	⑤ 被災地支援物産展	④ 宗門社会活動展	③ 子どもたちの笑顔のために募金	② ほつとはあとシヨップ （結ぶ絆から、広がるご縁へ）	① 「西本願寺ブランドツリーリング」 「真宗十派本山報恩講法要巡り」
オンライン配信	テーマ 「ハンセン病差別問題について —正しい知識と理解を深めるために—」	12:30 表彰式 〈阿弥陀堂〉	12:00 ～ 16:00	9日 （月・祝）		12:00 ～ 16:00	12:00 ～ 16:00	13:30 ～ 15:30	9:30 ～ 15:30	スタンプ設置場所…お茶所・龍虎殿
			9:00 ～ 16:00	10日 （火）		9:30 ～ 16:00	9:30 ～ 16:00	9:30 ～ 15:30		
				11日 （水）						
				12日 （木）						
				13日 （金）						
				14日 （土）						
				15日 （日）						
			14:30 ～ 22:00	16日 （月）		9:30 ～ 12:00	9:30 ～ 12:00	9:30 ～ 11:30		

15日のみ17:00～19:00
間法会館1Fロビー（和室前）で
パンの販売をします！

西本願寺 小豆粥 <レトルト> 500円(税込)

親鸞聖人がお好きであったとされる小豆の
入った「小豆粥」がレトルトになりました！
ちょうどいい塩加減と生姜の風味で
身体の芯から温まります♪



御正忌報恩講法要
参拝のお土産に
ピッタリ！



販売中 西本願寺売店（伝道本部1F「法輪」・間法会館1F）
・大谷本廟ロビー売店

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年
慶讃法要記念 愛唱歌
〔原調：へ長調〕

みんな花になれ

作詞 山口 タオ
作曲 加藤登紀子

1.あなたがー わらうとー はなになるー
2.あなたがー ないたらー あめになるー

みているー わたしもー はなになるー
みているー わたしもー あめになるー

いいことー あるよー わらったらー
いいんだー いいんだー ないたっつてー

だれでもー はーなにー なれるんだー
あーめがー ふるからー はながさくー

そらをみあげるはなのように えがおいっばいさか そうよ
かぜによりそうはなのように やさしいえがおがさくんだよ

そらをみあげるはなのように えがおいっばいさか そう
かぜによりそうはなのように やさしいえがおが

よ さくんだよ

やさしいえがお さかそうよ

あなたが泣いたら 雨になる
見ている私も 雨になる
いいんだいいんだ 泣いたって
雨がふるから 花が咲く
風によりそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
風によりそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
やさしい笑顔が咲くんだよ

空を見上げる花のように
笑顔いっばい咲かそうよ
空を見上げる花のように
笑顔いっばい咲かそうよ
笑顔いっばい咲かそうよ
笑顔いっばい咲かそうよ

あなたが笑うと 花になる
みている私も 花になる
いいことあるよ 笑ったら
誰でも花になれるんだ
空を見上げる花のように
笑顔いっばい咲かそうよ
空を見上げる花のように
笑顔いっばい咲かそうよ

浄土真宗本願寺派
公式YouTubeチャンネル



2021年4月15日
本願寺御影堂にて
歌唱：加藤登紀子さん

JASRAC 出 2209932-201

販売 2

ほっとはあとショップ 結ぶ絆から、広がるご縁へ

自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献することをめざして、障がいのある人たちが中心となって製作した「ほっとはあと製品」を出展販売いたします。お店には、おいしいパンやお菓子、生活雑貨等が日替わりで並びますので、皆さまのお越しをお待ちしております。



主催：特定非営利活動法人 京都ほっとはあとセンター
※障がいのある人たちの自立と社会参加を図ることを目的に、京都府・京都市・府内の授産施設や共同作業所が合同で設立した団体です。
後援：浄土真宗本願寺派 重点プロジェクト推進室

日時 法要期間中 9時30分～15時30分
※16日は出店なし
場所 お茶所内
※15日(日)のみ 17時～19時に
聞法会館 1階ロビー(和室前)でパン販売

重点プロジェクト推進室

募金 3

子どもたちの笑顔のために募金

宗派では「子どもたちの笑顔のために募金」を進めています。ご参拝の折にお寺などで集められた募金をブース(お茶所内)までお持ちください。



日時 法要期間中 9時30分～15時30分
※9日は13時30分から、16日は11時30分まで
場所 お茶所内



キャッシュレス募金
専用ページは
こちらから

重点プロジェクト推進室

ほっとはあとショップ出展販売施設

- 9日・ジョイント・ジョイ (焼き菓子、常温保存の和菓子、組紐製品)
- ワークショップ友愛印刷(ステンシルメモ帳、染め商品)
- 10日・ブティパ(アクセサリー、生活雑貨)
- みかげ。(生活雑貨、編み物製品)
- 11日・西寺育成苑(パン、焼き菓子)
- ネストラボ京都(生活雑貨、アクセサリー)
- 12日・ききょうの杜(焼き菓子、パウンドケーキ)
- のつつ(生活雑貨、ポストカード)
- 13日・飛鳥井ワークセンター(パン)
- 工房あすく(革製品、縫製品)
- 14日・たなべ緑の風作業所(パン、生活雑貨<※パン売後に販売>)
- アシストセンターえーる(自社農園で栽培した農産物の加工食品)
- 15日・大江作業所(焼き菓子、丹後和紙で作った張り子商品)
- 京都市だいが学園(パン、焼き菓子)

販売

被災地支援物産展 5

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生し、二〇二二年三月に十一年目を迎えました。復興への歩みが進みつつある中、震災被害の風化が危惧されています。被災地では東京電力福島第一原子力発電所事故の影響などにより、全国に散らばる避難者はお約二万人以上にのぼり、未だに様々な困難を抱えています。

また、近年は九州地方を中心とした大規模な水害が発生し、多くの方が被害に遭われました。

宗門といたしましては、被災地及び被災者支援の取り組みとして、阿弥陀堂前白洲テントにて、被災各県の物産展を開催します。



日時 法要期間中 9時30分～16時
※9日は12時から、16日は12時まで
場所 白洲特設テント <売り切れ次第終了>

社会部 <災害対策担当>

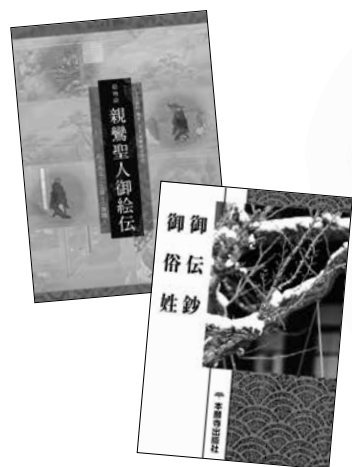
販売

通夜布教書籍頒布 7

本願寺出版社が発行している書籍・グッズをいたします。御正忌報恩講法要期間中、四千円以上お買い上げの方にはオリジナルエコバッグを進呈いたします(先着順)。是非お立ち寄りください。



オリジナル
エコバッグ



日時 1月15日(日)
14時30分～22時
場所 聞法会館 1階 特設ブース

本願寺ブックセンター
(安穩殿1階)
法要期間中 9時～17時
※16日は8時から

本願寺出版社

展示 4 宗門社会活動展

社会部〈社会事業担当〉では、ビハラー活動をはじめ、矯正教化、更生保護事業など、様々な活動を推進しております。また、浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会（全養本派クラブ）では、「こども虐待防止」のシンボルマークである「オレンジリボン運動」の啓発に取り組んでおります。広く社会に向けた活動をパネルにてご紹介しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



日時 法要期間中 9時30分～16時
※9日は12時から、16日は12時まで
場所 白洲特設テント

社会部〈社会事業担当〉

展示販売 6 矯正展〈キャピック展〉

宗門所属の教誨師・篤志面接委員（約三六〇名）が全国の刑務所や少年院等において教化伝道および、社会貢献の一環として宗教教誨や面接活動を実施しています。その被収容者の社会復帰に備え、施設職員の指導のもと、各施設内の工場等で刑務作業を実施しております。そこで制作される刑務所作業用品（家具・靴・伝統工芸品など心をこめた逸品）の展示販売会をおこなっていますので、ぜひお立ち寄りください。



- ①大人気の「監獄刑務所所獄シリーズ」
- ②汚れ落としのスーパースター「ブルスティック」
- ③組合せ自由自在「カラー整理箱」

主催：（公財）刑務作業協力事業部/
浄土真宗本願寺派矯正教化連盟
後援：京都刑務所
協賛：刑務作業協賛業者

日時 法要期間中 9時～16時
※9日は12時から、16日は12時まで
場所 白洲特設テントおよび
聞法会館1階 和室（2会場）

社会部〈社会事業担当〉

展示 8 人権パネル展

人権週間より御正忌報恩講法要までおよそ四十日間を縁として、宗派が推進する「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）の具体的な取り組みのひとつとして開催しております。

今回は、「ハンセン病差別問題についてー正しい知識と理解を深めるためにー」をテーマとして、現在も続くハンセン病差別問題について、改めてハンセン病患者の方々が隔離政策によって受けた多くの苦痛と事実を真摯に受けとめ、今、私たちにできることは何か、ということを考えていただく機縁となることを目的としています。

すべての人びとが自他ともに心豊かに生きることができるよう、共に学びを深めてまいりましょう。



日時 人権週間（12月5日（月）～1月16日（月））
場所 聞法会館1階ロビー

社会部〈人権問題担当〉

展示 9 第66回 全国児童生徒作品展

本作品展は、「絵画の部」「書の部」「作文の部」の三部門からなり、全国の幼児、小・中学生から、毎年多くの作品を出品いただいております。応募作品の中から、「特選」（各部門各学年から1名）を選び、御正忌報恩講期間中に阿弥陀堂で表彰します。

全国の子どもたちから応募された力作を、ぜひご覧ください。なお、本年は展示作品の一部を親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要期間中にも展示いたします。



日時 法要期間中
[表彰式]
1月14日（土）
12時30分（阿弥陀堂）
場所 伝道本部東棟1階ロビー

寺院活動支援部〈組織教化担当〉

スタンプラリー

1

『西本願寺グランドツーリング』 (全国別院巡拝スタンプラリー) 『真宗十派本山報恩講法要巡り』

宗門では、全国にある別院や教堂の報恩講スタンプラリーを実施しています。また、真宗教団連合においても、真宗十派本山の報恩講法要巡り（スタンプラリー）を実施しています。お茶所・安穩殿・龍虎殿にてスタンプ帳を配布しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



真宗十派
真宗教団連合
(所務部
〈文書担当〉)

グランドツーリング
重点プロジェクト
推進室

公開講座

10

第16回 本願寺史料研究所 公開講座

親鸞聖人御誕生八五〇年 立教開宗八〇〇年に向けて、「親鸞聖人を知る・本願寺を知る」歴史講座を、法要期間限定でオンライン配信いたします。

【あいさつ】

岡村喜史
(本願寺史料研究所上級研究員)

【第一部】 約四十分

赤松徹眞
(本願寺史料研究所長)

「立教開宗八〇〇年の歴史的意義
—混とんとする現代と自己を問う—」

【第二部】 約四十分

辻岡健志

(宮内庁書陵部図書課宮内公文書館研究員)
「関東大震災と築地本願寺
—震災から復興へ—」

日時

法要期間中

オンライン配信<無料>



視聴はこちら

所務部 〈文書担当〉

新制 御本典作法

「御本典」とは親鸞聖人の主著であり私たち浄土真宗の根本聖典でもある『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』のことを指します。真宗教団連合(真宗十派で組織)では元仁元年(一二三四年)四月十五日にこの『教行信証』の草稿本が完成したとし、この日を「立教開宗記念日」と定めています。

昭和四十八年の「親鸞聖人御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇年慶讃法要」では『教行信証』からの御文で「御本典作法」が音楽法要として厳修されました。当時の仏教界では音楽法要は斬新的で新たな可能性を示しました。

令和五年三月より修行いたします「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」では、おなじく『教行信証』に依り、新たに伝統的な節回しを一部復活させ五〇年前の「御本典作法」も法要の前後に取り入れて、五〇年前の想いをしっかりと受け止め、次の五〇年に向けて伝統と斬新さを発現できるように「新制御本典作法」を制定いたしました。

特に「正信偈」の部分は、和讃譜を新たに採譜いたしました。これまでの節に加え、もう一つ節を加えることによって選択肢が増え、各寺院の法要での唱え分けができるものと考えます。この和讃譜正信偈も次の五〇年に向けて皆さんでご唱和できますことを願っております。

頌讚

(教卷)

出律曲
音曲

羽

平調

每句取次第

商
宮
羽

如^によ

來^{らい}

興^{こう}

世^せ 次第取

之^し

正^{しょう}

說^{せつ}

奇^き

特^{とく}

最^{さい}

勝^{しょう} 次第取

之^し

妙^{めう} (ワル)

典^{でん}

一^{いち}

乘^{じよう}

究^く

竟^{きよう} 次第取

之^し

極^{ごく}

說^{せつ}

速^{そく}

疾^{しつ}

圓^{えん}

融^{にゆ} 次第取

之^し

金^{こん}

言^{ごん}

十^{じつ}

方^{ぼう}

稱^{しょう}

讚^{さん} 次第取

之^し

誠^{じよう}

言^{ごん}

時^じ

機^き

純^{じゆん}

熟^{じゆく}

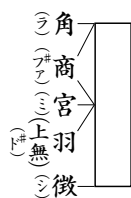
之^し 次第取

眞^{しん}

教^{けう} (ワル)

正信念佛偈（行卷）

和讃譜 出音 宮 平調



歸命无量壽如來
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

南无不可思議光
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

法藏菩薩回位時
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

在世自在王佛所
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

觀見諸佛淨土曰
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

國土人天之善惡
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

建立无上殊勝願
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

超發希有大弘誓
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

五劫思惟之攝受
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

重誓名聲聞十方
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

普放无量无边光
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

无碍无对光炎王
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

清淨歡喜智慧光
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

不斷難思无稱光
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

超日月光照塵刹
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

一切群生蒙光照
一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮 一宮

本願名號正定業
一宮一羽一宮一商一宮一

成等覺證大涅槃
一宮一羽一宮一商一宮一

如來所以興出世
一宮一羽一宮一商一宮一

五濁惡時群生海
一宮一羽一宮一商一宮一

至心信樂願爲回
一宮一羽一宮一商一宮一

必至滅度願成就
一宮一羽一宮一商一宮一

唯說彌陀本願海
一宮一羽一宮一商一宮一

應信如來如實言
一宮一羽一宮一商一宮一

能發一念喜愛心
一宮一羽一宮一商一宮一

不斷煩惱得涅槃
一宮一羽一宮一商一宮一

凡聖逆謗齊迴入
一宮一羽一宮一商一宮一

如衆水入海一味
一宮一羽一宮一商一宮一

攝取心光常照護
一宮一羽一宮一商一宮一

已能雖破无明闇
一宮一羽一宮一商一宮一

貪愛瞋憎之雲霧
一宮一羽一宮一商一宮一

常覆眞實信心天
一宮一羽一宮一商一宮一

譬ひ如によ日につ光こう覆ふ雲うん霧む
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

雲うん霧む之し下げ明みよう无む閻あん
一商 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

獲ぎやく信しん見けん敬きよう大だい慶きよう喜き
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

即そく横おう超ちよう截ぜつ五ご惡あく趣しゆ
一宮 一宮 一羽 一羽 一微 一微 一微

一いつ切さい善ぜん惡まく凡ぼん夫ぶ人にん
一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

聞もん信しん如によ來らい弘ぐ誓ぜい願がん
一商 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

佛ぶつ言ごん廣こう大だい勝しょう解げ者しゃ
一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

是ぜ人にん名みよう分ふん陀だ利り華け
一宮 一宮 一羽 一微 一微 一微

彌み陀だ佛ぶつ本ほん願がん念ねん佛ぶつ
一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

邪じゃ見けん憍きよう慢まん惡なく衆しゆ生じよう
一商 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

信しん樂ぎよう受じゆ持じん甚に以なん難なん
一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

難なん中ちゆう之し難なん无む過か斯し
一宮 一宮 一羽 一微 一微 一微

印いん度ど西さい天てん之し論ろん家げ
一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

中ちゆう夏か日じち域いき之し高こう僧そう
一商 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

顯けん大だい聖しやう興こう世せ正しやう意い
一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

明みよう如によ來らい本ほん誓ぜい應おう機き
一宮 一宮 一羽 一微 一微 一微

釋迦如來楞伽山
一宮一羽一宮一商一宮一

龍樹大士出於世
一宮一羽一宮一商一宮一

宣說大乘无上法
一宮一羽一宮一商一宮一

顯示難行陸路苦
一宮一羽一宮一商一宮一

爲衆告命南天竺
一宮一商一宮一宮一羽一

悉能摧破有无見
一宮一宮一羽一微一微一

證歡喜地生安樂
一宮一商一宮一宮一羽一

信樂易行水道樂
一宮一宮一羽一微一微一

憶念彌陀佛本願
一宮一羽一宮一商一宮一

自然即時入必定
一宮一商一宮一宮一羽一

唯能常稱如來號
一宮一羽一宮一商一宮一

應報大悲弘誓恩
一宮一宮一羽一微一微一

天親菩薩造論說
一宮一羽一宮一商一宮一

歸命无碍光如來
一宮一商一宮一宮一羽一

依修多羅顯眞實
一宮一羽一宮一商一宮一

光闡横超大誓願
一宮一宮一羽一微一微一

廣こう由ゆ本ほん願がん力りき迴え向こう
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

爲い度ど群ぐん生じょう彰しょう一いつ心しん
一商 一羽 一宮 一宮 一羽

歸き入にゅう功く德どく大だい寶ほう海かい
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

必ひつ獲ぎやく入にゅう大だい會え衆しゆ數しゆ
一宮 一羽 一宮 一宮 一羽

得とく至し蓮れん華げ藏ぞう世せ界かい
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

卽そく證しょう眞しん如にょ法ほつ性しょう身じん
一商 一羽 一宮 一宮 一羽

遊ゆう煩ぼん惱のう林りん現げん神じん通ずう
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

入にゅう生しょう死じ菌おん示じ應おう化げ
一宮 一羽 一宮 一宮 一羽

本ほん師し曇どん鸞らん梁りょう天てん子し
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

常じょう向こう鸞らん處しよ菩ぼ薩さつ禮らい
一商 一羽 一宮 一宮 一羽

三さん藏ぞう流る支し授じゆ淨じよう教きよう
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

焚ぼん燒じよう仙せん經ぎよう歸き樂らく邦ほう
一宮 一羽 一宮 一宮 一羽

天てん親じん菩ぼ薩さつ論ろん註ちゆう解げ
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

報ほう土ど回いん果が顯けん誓せい願がん
一商 一羽 一宮 一宮 一羽

往おう還げん迴ね向こう由ゆ他た力りき
一宮 一羽 一宮 一商 一宮

正しょう定じよう之し回いん唯ゆい信しん心じん
一宮 一羽 一宮 一宮 一羽

惑わく染ぜん凡ぼん夫ぶ信しん心じん發ぼつ
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

必ひつ至し无む量りよう光こう明みよう土ど
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

道どう綽しゃつ決けつ聖しょう道どう難なん證しょう
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

萬まん善ぜん自じ力りき貶へん勤ごん修しゆ
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

證しょう知ち生しょう死じ即そく涅ね槃はん
一商 一宮 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

諸しよ有う衆しゆ生じよう皆かい普ふ化け
一宮 一宮 一宮 一羽 一微 一微 一微

唯ゆい明みよう淨じよう土ど可か通つう入にゆう
一商 一宮 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

圓えん滿まん德とく號ごう勸かん專せん稱しよう
一宮 一宮 一宮 一羽 一微 一微 一微

三さん不ふ三さん信しん誨け慇おん懃ごん
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

像ぞう末まつ法ほう滅めつ同どう悲ひ引いん
一商 一宮 一商 一宮 一宮 一宮 一羽

一いつ生しょう造ぞう惡あく值ち弘ぐ擔ぜい
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

至し安あん養によう界がい證しょう妙みよう果か
一宮 一宮 一宮 一羽 一微 一微 一微

善ぜん導どう獨どく明みよう佛ぶつ正しょう意い
一宮 一宮 一羽 一宮 一商 一商 一宮

開かい入にう本ほん願がん大だい智ち海かい
一宮 一宮 一羽 一宮 一宮 一宮 一微



行者ぎようじゃ正受しょうじゆ金剛こんごう心しん
 與よ章提いだい等獲とうぎやく三さん忍にん

源げん信しん廣こう開かい一いち代だい教けう
 專せん雜ぞう執しつ心しん判はん淺せん深じん

極ごく重じゆう惡あく人にん唯ゆい稱しゆう佛ぶつ
 煩ぼん惱のう鄣しょう眼げん雖すい不ふ見けん

我が亦やく在ざい彼ひ攝せつ取しゆ中ちゆう
 大だい悲ひ无む倦けん常じやう照せう我が

慶きやう喜き一いち念ねん相そう應おう後ご
 即そく證しやう法ほつ性しやう之し常じやう樂らく

偏へん歸き安あん養にやう勸かん一いつ切さい
 報ほう化け二に土ど正しやう辨べん立りつ

憐れん愍みん善ぜん惡まく凡ぼん夫ぶ人にん
 選せん擇じやく本ほん願がん弘くわう惡あく世せ

壹越調 定曲

大信者「則是」

同
ちようせい
長生
せいの
角
微
上
不死
し
角
受下
之
し
角
末下
神
しん
宮
末上
方
ぼう
角
受下
宮
ウ

利り ● 宮一 忻ごん ●
 上 商 微 上 スク 微 末下 角 上 微 上 スク 微 末下 角
 他 た ウ 角 一 微 末下 角
 深 じん ● 一 スク 微 末下 角
 廣 こう 角 微 上 ウ 一 微 受下 角
 之 し ● 一 微 上 ウ 一 微 上 ウ
 信 しん 角 微 上 ウ 一 微 上 ウ
 商 末下 角 一 スク 微 上 ウ
 樂 げう ● (ワル) 角 微 上 ウ 一 微 上 ウ
 術 じゆつ ● (ワル) 角 微 上 ウ 一 微 上 ウ

道俗時衆共同心
 どうぞくじしゆぐどうしん
 弘經大士宗師等
 ぐきやうだいにししとう
 速入寂靜无爲樂
 そく（フル）にうじやくじやうむいらく
 還來生死輪轉家
 げんらいしやうじりんでんげ

宮 イ	唯 ゆい	宮 ウ	拯 じょう	宮 一	必 ひつ	宮 一	決 けつ
宮 羽	可 か	宮 イ	濟 さい	宮 羽	以 ち	宮 羽	以 ち
商 宮	信 しん	商 宮	无 む	商 宮	信 しん	商 宮	疑 ぎ
宮 羽	斯 し	宮 羽	邊 へん	宮 羽	心 じん	宮 羽	情 じょう
宮 ウ	高 こう	商 宮	極 ごく	宮 ウ	爲 い	商 宮	爲 い
宮 ウ	僧 そう	商 宮	濁 じよく	宮 ウ	能 のう	商 宮	所 しよ
微 宮	說 せつ	宮 ウ	惡 あく	微 宮	入 にう	宮 ウ	止 し
(ツ)					(ワル)		

極速圓融之白道
世間難信之捷徑
心光攝護之一心
金剛不壞之眞心

眞如一如實之信海
證大涅槃之眞回
希有最勝之大信
易往无人之淨信

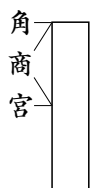
念

佛

呂曲
出音
宮

平調

俱曲



南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛

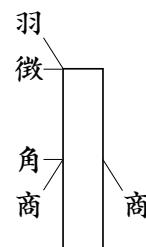
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛
南無阿彌陀佛

回向句（證卷）

中曲 出音

徴

壹越調



ウ 徴 一 スク 仰 げう	ン 徴 一 スク 還 げん	ウ 徴 一 スク 證 しょう
ウ 徴 一 スク 可 か	ウ 徴 一 スク 相 そう	イ 徴 一 スク 大 だい
羽 一 スク 奉 ぶ	徴 一 スク 利 り	羽 一 スク 涅 ね
キル 徴 二 スク 持 じ	アタリ 角 イロ 本下 二 徴 益 やく	ン 徴 一 スク 槃 はん
商 ク スク 特 たく	けん 商 一 角 顯 けん	キル 徴 二 スク 籍 じやく
商 一 スク 可 か	一 角 利 り	同 商 一 角 願 がん
ウ 商 一 スク 頂 ちよう	た 商 一 角 他 たら	一 角 力 りき
イ 角 一 スク 戴 だい	ウ 角 一 スク 正 しょう	え 商 一 角 廻 かい
商 一 落音 矣 い	アタリ 角 イロ 本下 二 徴 意 い	ウ 角 一 スク 向 こう

親鸞聖人のご生涯（御絵伝解説）

親鸞聖人のご生涯をまとめた絵物語を『御絵伝』といいます。

聖人のひ孫にあたる本願寺第三代覚如上人が、聖人の三十三回忌の翌年にそのご生涯を讃仰するために書かれた、『本願寺聖人親鸞伝絵』（絵巻物）を元にしています。

後にこの『親鸞伝絵』が文章の部分『御伝記』と絵の部分『御絵伝』に分けられ、江戸時代になつてからは、一般のお寺でも、報恩講（聖人のご命日法要）の際には、『御絵伝』を奉懸し、『御伝鈔』が拝読され、広くご門徒に親しまれるようになりました。

『御絵伝』は、八幅や六幅で描かれているものもありますが、主にお寺で奉懸されるのは、四幅や二幅で描かれているものです。

この『御絵伝』（55〜62ページ）は、平成二十三年（二〇二一年）にお迎えした親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を記念して、江戸時代の初めから四百年間、お寺や仏壇に奉懸する掛軸を手掛けてきた繪表所より寄進された、二幅の『御絵伝』を軸の表装から八面の額表装へ改装したもので、龍虎殿一階ロビーにて常時ご覧いただけます。



【出家学道】

(下段・上段左)

承安三年(一一七三年)、今の京都市伏見区日野にお生まれになった親鸞聖人は、治承五年(一一八一年)、御年九歳で、伯父の日野範綱卿に伴われ京都市東山区の慈円和尚(慈鎮和尚)の坊舎(白川房)で、僧侶となる儀式(お得度)を受け出家されました。

夜も近いから、明日来るようにと一旦断りましたが、聖人は「明日ありと 思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものは」と歌を詠まれ、その日の出家を許されます。この後聖人は、範宴と名乗られました。

各場面には、咲き誇るその桜、上段左には、白川房の慈円和尚が見守る中、紙燭で手元を照らしながら、剃髪する(髪を剃る)様子が描かれています。

【吉水入室】

(上段右)

建仁元年(一一〇一年)、二十九歳とられた聖人は、頂法寺(六角堂)の参籠を経て、源空聖人(法然聖人)のもとを訪ねます。聖人が白い衣と袈裟を着けて、源空聖人のもとを訪れている様子が描かれています。

【六角夢想】

(下段・上段右)

親鸞聖人は二十九歳の時比叡山を下りられ、京都市中京区の頂法寺(六角堂)に百日間の参籠をされます。

この絵は、その九十五日目の明け方に聖人が見られた夢の様子が描かれています。

この夢を見られた聖人は源空聖人(法然聖人)のもとを訪ねるご決意をされ、お弟子になられます。

聖人は、お堂の左端で横になっているお姿と、頂法寺のご本尊、救世観音に対して礼拝しているお姿、東(右)を見ているお姿で描かれています。

【蓮位夢想】

(上段左)

この場面は、親鸞聖人八十四歳の頃に話がうつり、建長八年(一二五六年)、蓮位という聖人のお弟子が見た夢の様子が描かれています。蓮位は上段左上、眠っている姿で描かれています。

その夢は、聖徳太子が聖人に向かって礼拝されていたという内容でした。このことによって、聖人が阿弥陀如来の化身であることが伝えられています。



【選択付属】

親鸞聖人が、源空聖人(法然聖人)から、『選択本願念仏集』と源空聖人の絵像を授かっている場面です。

聖人はその主著『顕浄土真実教行証文類』の後序で、

元久乙丑の歳(元久二年「一二〇五年」、恩恕(お許し)を蒙りて(受けて)『選択』(選択集)を書しき。

同じき年の初夏中旬第四日に、

「選択本願念仏集」の内題の字(書物の題名)、

ならびに「南無阿弥陀仏 往生之業 念仏為本」と

「釈綽空」の字と、空(源空聖人)法然聖人の真筆(直

筆)をもつて、これを書かしたまひき(書いてくださった)。

同じき日、空(源空聖人)の真影(絵像)申し預かりて、図

画したてまつる。

と思います。

【信行両座】(下段)

ある時親鸞聖人が、「お浄土へ行くことは、ご信心で決まるか、念仏の行をばげむことで決まるか」お弟子たちに確認した

いと、源空聖人(法然聖人)に相談しました(下段右)。

「ご信心でお浄土へ行くことが決まる」という場所には、数人のお弟子と聖人、駆け付けた法力房(熊谷直実)、最後に源空

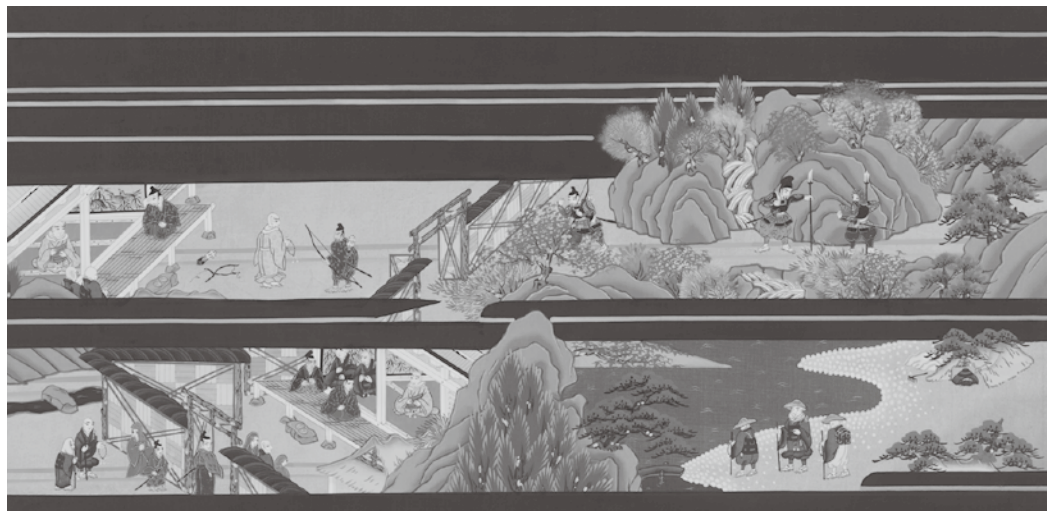
聖人が座りました(下段左)。

【信心諍論】(上段右)

ある時親鸞聖人が、「源空聖人のご信心と、わたしのご信心は同じです」と話し、お弟子たちに厳しく咎められました。源空聖人は、「ご信心は、阿弥陀如来から賜るもの。同じだから同じお浄土へ行けます」と仰った様子が描かれています。

【入西鑑察】(上段左)

場面は変わって、親鸞聖人七十歳の頃に話がうつり、お弟子の入西が、聖人に絵姿をお願いするより先に、聖人がその気持ちを察して、「定禅という絵師に描いてもらおうといい」と言われたことが描かれています(右)。定禅は、「夢の中で描いた生身の阿弥陀如来である僧侶こそ、親鸞聖人でした」と感動の涙を流しながらお姿を描かれました(左)。



念仏禁止 (下段右)

お念仏の教えが弘まるにつれ、それまでの奈良や比叡山の仏教との摩擦が起こるようになり、それらから朝廷へ、念仏停止の申し出が奏上されるようになります。笏を持った公卿が、門の前に奏上に訪れている様子が描かれています。

公卿僉議 (下段左)

念仏停止の申し出を受けて、御所の仁寿殿で行われた僉議の様子が描かれています。

そして承元元年(二二〇七年)念仏停止が決定し、住蓮・安楽など四人が死罪、八人の流罪が決定します。源空聖人(法然聖人)は土佐国(実際には讃岐国)、親鸞聖人は越後国国府へ、還俗(僧侶の身分の剥奪)の上、流罪となりました。

師資遷謫 (上段)

承元元年旧暦三月、源空聖人が旅立たれるところ(上段左)と、親鸞聖人が旅立たれるところ(上段右)です。源空聖人七十五歳、聖人三十五歳、この日を最後にお二人はこの世で再会することはありませんでした。

稲田興法 (下段)

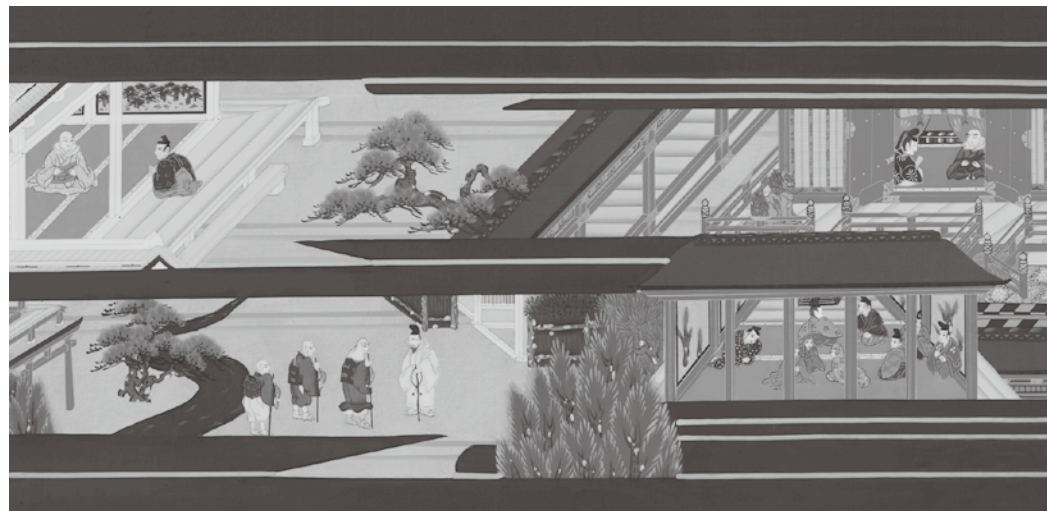
建暦元年(二二一年)、親鸞聖人三十九歳の時、流罪の赦免がくだされ、源空聖人(法然聖人)は赦免の翌年、京都で往生されます。

聖人の元にもご往生の事は伝えられたと考えられますが、京都へは戻られずに関東へ向かわれ(下段右)、やがて今の茨城県笠間市稲田に草庵を結ばれ、多くの人が訪れるようになります(下段左)。

弁円済度 (上段)

聖人の草庵に多くの人が訪れる様子を快く思わない山伏たちがあらわれ(上段右)、その中の弁円という山伏が、ついに聖人の命を奪わんと草庵に押しかけます。

しかし、聖人の立ち振る舞いをみて、弓矢を折り、刀を捨てて弟子になりたいと申し出て、聖人から明法房という名を授けられました(上段左)。



箱根霊告 (下段左)

親鸞聖人が関東に住まわれてからおおよそ二十年、聖人は京都へ帰られます。その道中、一行が箱根を通りかかったところ、烏帽子を被り衣を整えた箱根神社の宮司が出てきて、「箱根権現(神)が今夢に出てきて、尊敬している方が通るのでもてなしてほしいと願われたので出てまいりました」と、申し出てきます。一行と宮司が話をしているその様子が描かれています。

熊野霊告 (下段右・上段)

茨城県水戸市飯富(旧大部)に、お念仏を喜ぶ平太郎という者が住んでいました。その平太郎に大部の領主が、和歌山県の熊野神社に参拝するように命じます。

平太郎は、念仏を申す者が、神社に参拝してもいいものかと心配になり、京都の聖人の元を訪ねます(上段左)。聖人は、「阿弥陀如来の本願を信じる者は、主が阿弥陀仏であるから、神様を軽んじることはありません」と言われ、平太郎はお念仏しながら熊野神社に参拝します。その夜、眠る平太郎の夢に(下段右、正装した熊野権現(神)と聖人が夢に出てきます(上段右)。

洛陽遷化 (下段・上段左)

親鸞聖人は、弘長二年(一二六二年)十一月の下旬体調を崩されます。それ以来、世俗のことは何も仰らずに、ただ阿弥陀如来のご恩と、お念仏が絶えることがなかったそうです(下段右)。そして十一月二十八日、今の暦では一二六三年一月十六日のお昼頃、お釈迦様がお亡くなりになった時と同じように、頭を北にして右脇を下に、西を向いて往生されました(下段中央)。御年九十歳でした。

廟堂創立 (上段右)

聖人がご往生されて十年後の文永九年(一二七二年)、京都東山の西側の麓、鳥部野の北、大谷にあった聖人のお墓を吉水の北、今の浄土宗知恩院の北あたりに改葬して、お堂を建てて親鸞聖人のありし日のお木像をご安置されました。このお堂が本願寺の起源で、このお木像こそ今の御影堂にご安置されている御真影さまだと伝わっています。

【御正忌報恩講法要期間中の帰敬式のご案内】

— 当日のお申し込みでも法名をいただくことができます —

一、時間

一月九日(月・祝)～十五日(日)

午前の部 午前六時から(朝のおつとめ)に引き続き
午後の部 午後一時

一月十六日(月)

午後の部 午後一時三十分(午前の部は行われません)

二、受付(式は御影堂にて行われます)

午前の部 前日または当日の開門後、龍虎殿(参拝教化部)にてお申し込みください。

※晨朝後、御影堂での受式希望も受付可能です。

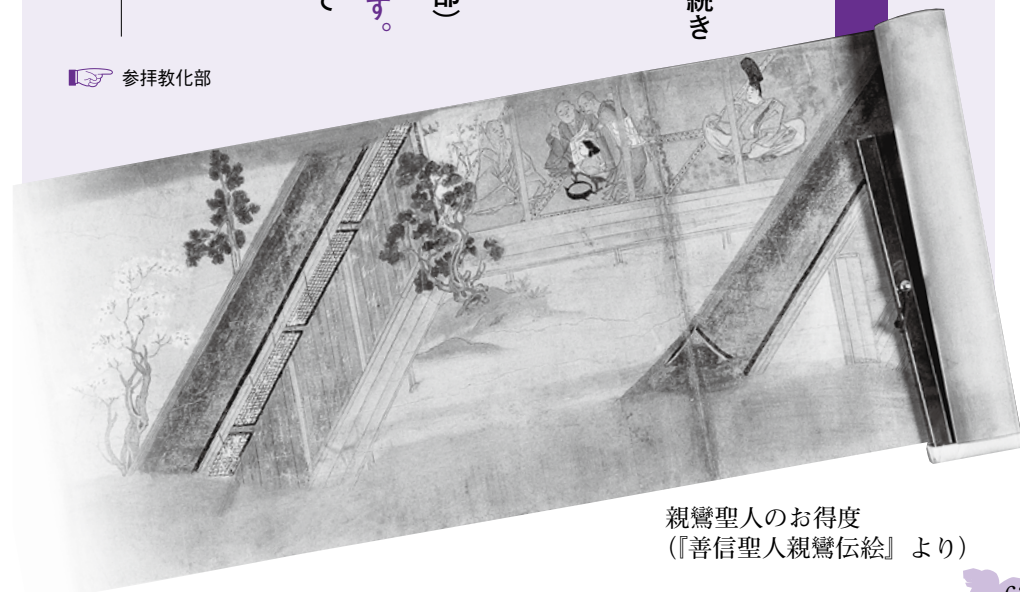
午後の部 受式一時間前までに龍虎殿(参拝教化部)にてお申し込みください。

三、冥加金

成人 一万円(未成年 五千円)

※一月八日(日)については、終日行われません。
※本人以外の受式は認められません。

参拝教化部

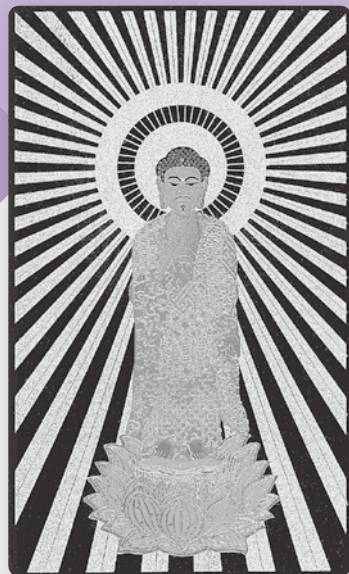


親鸞聖人のお得度
(『善信聖人親鸞伝絵』より)

携行本尊(絵像)

携行本尊とは、「独りじゃないよ、いつも一緒だよ」と、
よびかけてくださる阿弥陀さまを、
いつでもどんな時でも感じられるよう、
持ち歩くことができる名刺サイズの御本尊です。
ご自身のために、また遠く離れて暮らすご家族のために、
ぜひお求めください。

PR動画及び
申込みフォームは
こちら→



縦90mm×横55mm×厚み2mm
漆ブラック調バイオプラスチック

冥加金 10,000円

※荷造送料別途1,000円必要(4幅まで)
※1度に5幅以上送付の場合は荷造送料無料
(令和5年3月31日まで)

参拝教化部

携行本尊関連商品のご案内

※下記関連商品は【取扱い】先からお求めください。



- ・二つ折携行本尊入(4種)
- ・ホック付き携行本尊袋(3種)
- ・携行本尊ケース(茶・白)
- ・本尊スタンド(丸型・角型)他

【取扱い】
開明社(西本願寺売店)
TEL.075-341-4397



携行本尊専用
レーザーケース(3種)

【取扱い】
井筒法衣店
WEBカタログ
TEL.0120-075-720



携行本尊専用
フレーム&台座

【取扱い】
いのりオーケストラ
オンラインショップ
www.inori-orchestra.net



〈お西さんの法話〉

◆毎日(11:00)/御影堂 15分1席

講師はお西さんホームページでご確認ください



御影堂

〈お西さんの土曜法話〉

◆土曜日(17:00)/総会所 40分1席 ▶YouTube ▶LIVE 配信

〈1月の予定〉 1月21日(土) 星野 慎行師 1月28日(土) 葛野 洋明師

教義Q&A 〈法義示談〉

◆15:00/総会所 約60分

難しい仏教用語や教えについて、教学の最高学階を有する勧学が、どんな質問にもお答えします。

〈1月の予定〉 1月23日(月) 徳永 一法師



備え付けの質問状に質問を記入し、質問箱にお入れください。

「お西のお坊さん」による境内案内 お西さんを知ろう!



1日4回 所要時間…約30分

集合場所:お茶所(総合案内所)

1回目 10:00~ 2回目 11:30~
3回目 13:45~ 4回目 15:30~

本願寺の僧侶“お西のお坊さん”が、両堂や境内各所を法話を交え、ご案内いたします。どなたでも何度でもご参加いただけます。参加希望の方は、上記開催時間までにお茶所(総合案内所)にお越しください。

※本法要期間中も開催いたします。

何がもらえるかは
お楽しみ♪

デザインが新しく
なりました!

ご参加いただいた方には…

オニシ
024Card 全24種

1枚をプレゼント!

本願寺の見どころを
紹介する
オリジナルカードです。



ほとけさまのお話〈常例布教〉

◆^{じんじょう}晨朝〈朝のお勤め〉(6:00~)後/^{ごえいどう}御影堂 7分 ※配信なし

◆^{ひるご}昼座(14:00)/^{そうがいしよ}総会所 30分2席 ▶YouTube ▶LIVE 配信

1月 (16日昼座からの予定)

2023(令和5)年	講 師	講 題
16日(月) ^{昼座} ~19日(木) ^{晨朝}	熊本県 藤川 顕彰 師	念仏者の風景
19日(木) ^{昼座} ~22日(日) ^{晨朝}	大阪府 戸川 教宏 師	浄土真宗のご利益
22日(日) ^{昼座} ~25日(水) ^{晨朝}	広島県 佐々木弘海 師	念仏者の生き方
25日(水) ^{昼座} ~28日(土) ^{晨朝}	兵庫県 西村 一然 師	弥陀成仏のこのかたは
28日(土) ^{昼座} ~2月1日(水) ^{晨朝}	大阪府 葭田 誓朋 師	生死出づべき道

▶YouTubeによるお聴聞ができます!

毎日の常例布教・昼座とお西さんの土曜法話をYouTubeにて▶LIVE 配信しています。また、過去の法話(アーカイブ*)も公開中です。下記チャンネルから、いつでもどこでもお聴聞していただけます。



常例布教 昼座⇒
「お西さんの常例布教」
チャンネル



お西さんの土曜法話⇒
「お西さんの法要行事」
チャンネル



※(アーカイブ配信)は原則として後日6か月間公開予定(諸事情により公開されない場合もございます)。

お西さん(西本願寺)ホームページ

<https://www.hongwanji.kyoto>

本願寺のさまざまな情報を随時
発信しています。
ご参拝にお役立てください。



お西さん(西本願寺)公式Twitter

@nishi_hongwanji

法要行事のご案内など本願寺の
「今」をお伝えしています。
よろしければ、RT、フォローを
お願いいたします。

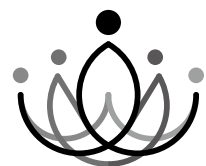


2023(令和5)年 本願寺の法要行事日程

元旦会・修正会	1月 1日(日・祝)
御正忌報恩講法要	1月 9日(月・祝)～16日(月)
如月忌	2月 7日(火)
第71回本山成人式	3月12日(日)
春季彼岸会	3月18日(土)～24日(金)
立教開宗記念法要	※
誕生会(日野誕生院慶讃法要)	5月20日(土)
宗祖降誕会	※
広如忌(角坊)	6月 1日(木)～ 2日(金)
大谷本廟納骨・永代経総追悼法要	6月 5日(月)～ 8日(木)
朝の法座(大谷本廟)	7月20日(木)～22日(土)
孟蘭盆会	8月14日(月)～15日(火)
戦没者追悼法要	8月15日(火)
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 (東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)	9月18日(月・祝)
秋季彼岸会	9月20日(水)～26日(火)
龍谷会(大谷本廟報恩講法要)	10月15日(日)～16日(月)
〈秋の法要〉 全国門徒総追悼法要	11月22日(水)～23日(木・祝)
御煤払	12月20日(水)
除夜会	12月31日(日)

毎月16日は Shinran's Day (親鸞聖人の日) 毎月15日・16日(1月は除く)

※ 親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年 慶讃法要として修行



ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

850
立教開宗
800

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年 慶讃法要

ご縁を慶び、お念仏とともに

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching
Life of Nembutsu enables us to appreciate every encounter

法要期日 2023(令和5)年

【第1期】

3月29日(水)～4月3日(月) [6日間]

【第2期】4月10日(月)～4月15日(土) [6日間]

【第3期】4月24日(月)～4月29日(土) [6日間]

【第4期】5月 6日(土)～5月11日(木) [6日間]

【第5期】5月16日(火)～5月21日(日) [6日間]



(慶讃法要専用サイト)



浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金 「ウクライナ緊急支援募金」募集について

宗派では、ロシアの軍事侵攻により避難生活を余儀なくされているウクライナの人々を支援することを目的に、緊急に「たすけあい運動募金」において標記募金の募集をしています。

つきましては、募金にご協力いただきますよう、下記の通りお願い申し上げます。
合掌

記

1. 募金の名称

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「ウクライナ緊急支援募金」

2. 受付口座番号

郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金

銀行振込

銀行 ゆうちょ銀行
店名 一〇九(イチゼロキュウ)店
番号 当座 0069957
名義 たすけあい募金

※通信欄に「ウクライナ緊急支援」とご記入ください。

住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。
お預かりした募金は指定寄付金として、関係団体へ送り、難民支援等に充てさせていただきます。

第一次配分(4月18日配分)

日本赤十字社	500万円
(NPO)国連UNHCR協会	500万円
(NPO)テラ・ルネッサンス	200万円

3. 受付期間

2022(令和4)年3月10日(木)から当分の間

4. 問い合わせ先

〒600-8501
京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町
浄土真宗本願寺派伝道本部 社会部＜災害対策担当＞
TEL 075-371-5181 FAX 075-365-6199
saigai-taisaku@hongwanji.or.jp

領解文

もろもろの雑行雑修自力のころをふりす
てて、一心に阿弥陀如来我等が今度の一大事の
後生御たすけ候へとたのみ申して候。たのむ
一念のとき往生一定御たすけ治定とぞんじ、
この上の称名は、御恩報謝とぞんじよろこび
申し候。この御ことわり聴聞申しわけ候事、
御開山聖人御出世の御恩、次第相承の善知識
のあさからざる御勧化の御恩と、ありがたく
ぞんじ候。
この上はさだめおかせらるる御おきて一期
をかぎり、まもり申すべく候。

報恩講の歌

作詞…日曜学校同人
作曲…野村成仁
黒瀬智圓

和歌の浦曲の 片男波の
寄かけよせかけ 帰る如く
我世に繁く 通い来り
み仏の慈悲 つたえなまし
一人居ても 喜びなば
二人と思え 二人にして
喜ぶおりは 三人なるぞ
その一人こそ 親鸞なれ

御正忌報恩講法要期間中の仏華

1月9日～12日午前

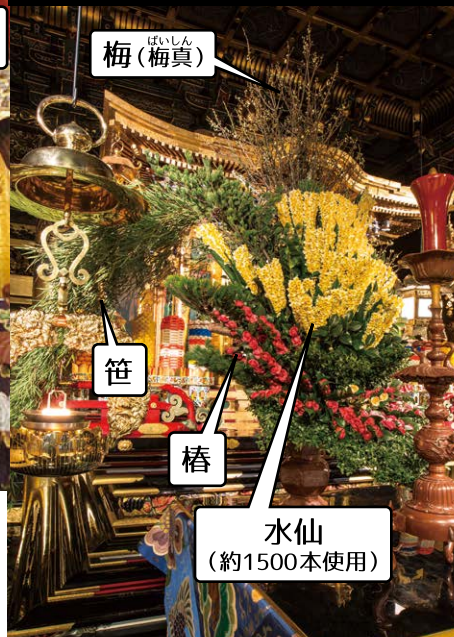


(御影堂)



御影堂内陣

1月12日午後～16日



(御影堂)

お西さんへ行こう。
2022年
春号・夏号・秋号



境内各所で配布しております。
ご自由にお持ち帰りください。

